



コラム

明日へ伝える その①

根岸遺跡

根岸遺跡は、太平洋岸から約2km内陸部に入った標高20m前後の低位段丘上に位置し、奈良時代から平安時代の集落跡で、竪穴住居跡13軒、工房跡2基、円形周溝遺構2基、土坑2基が見つかっています。

中でも、第7号住居跡（下写真）は一辺が約10m（床面積99㎡）あり、この時期のものとしては国内最大規模の大型竪穴式住居で、この集落に住む族長クラスの住居跡であると推定され、土師器坏24点、甕10点、さらに鎧の一種挂甲（けいこう）

の小札（こざね）、蔵手刀（わらびてとう）、刀子（とうす）、紡錘車、砥石、馬の骨、土玉が出土しています。

また、別の住居跡からは、出羽国（山形県・秋田県）で生産されたと思われる北陸型の丸底の須恵器甕も出土しています。

これらのことから、この地域には蝦夷（えみし）社会（当時の宮城以北に住んでいた人）の大きな集団の1つが存在し、その中で主体的な役割を担った集落跡の可能性が高いと考えられています。



昭和18年頃／青年学校の朝礼



昭和18年4月／竹槍部隊千名の街頭行進（一丁目～二丁目）



昭和18年4月／青年学校校庭での竹槍訓練



昭和初期／百石小学校運動会



昭和初期／あどけない幼児の遊戯



昭和初期／百石町全景(高屋敷より望む)



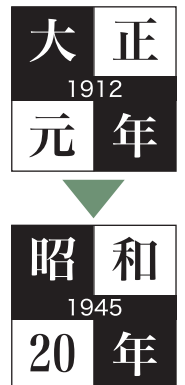
昭和初期／本町通り(一丁目、二丁目)



昭和10年代／根岸堤の氷切り(冬の風物詩)



昭和8年／三陸大津波(明神山 記念碑)



大正元年 大正2年 大正3年 大正6年 大正7年 大正8年 大正12年 大正13年 昭和2年 昭和4年 昭和5年 昭和6年 昭和8年 昭和9年 昭和13年 昭和14年 昭和15年 昭和16年 昭和18年 昭和20年 大正3年 大正9年 大正12年 昭和6年 昭和11年 昭和14年 昭和16年 昭和20年

世の中の出来事

戸数624戸、人口男2024人 女1822人、計3846人 出生191人
大凶作のため税が免除された
百石小学校移転
百石に電気普及(47戸)
上北郡青年団百石分団設置される
百石・下田間乗合自動車、初めて通る
村立病院病舎建築
幸運橋の架替
百石大火、12戸焼失
町制施行(4月20日)
百石町役場電話開設
消防本部設置
金華山沖大津波襲来(三陸大津波)
青年学校設置
肴町大火(20戸焼失)
唯円寺設置。八戸陸軍飛行場建設(高館に)町民多数動員される。砂鉄採鉱始まる
向平開墾入植
太平洋戦争始まる
当町で竹槍部隊を組織、街頭行進を行った
太平洋戦争終戦
第1次世界大戦に参戦
国際連盟に加盟
関東大震災
満州事変
二・二六事件
第2次世界大戦
太平洋戦争
ポツダム宣言を受諾、終戦
米軍が三沢に進駐